

## 第 6 章 ま と め

本研究では鋼橋における既設橋梁を再利用する方法を提案することを目的に、第 5 章において既設橋梁の再利用時の改造検討と新設橋梁の再利用しやすい構造検討を行った。この検討に至るステップとして、第 2 章で再利用の事例収集を行い、第 3 章で再利用事例の分析を行った。また第 4 章で形式変更の事例と概要と題して、ノージョイント化に対する検討を行った。収集した事例は事例集として台帳及び一般図をセットにし、巻末に示した。

第 5 章で提案した内容は必ずしも最適設計とはならない場合もあるが、再利用を必要としている技術者にアイデアを提供することを目的に検討しており、本報告書の中でコメントされていない経済性等については、具体的な改造検討を行う際に、個々の比較検討の中で実施されたい。

本報告書の中で取り上げた事例は、再利用が 18 例、ノージョイント化が 18 例と少ないが、時間の経過と共に今後増えつつあると思われるので、今後追加収集が必要となろう。なお、報告書巻末に示していない事例についても若干の資料は収集できているため、必要な場合は C グループ幹事まで連絡して頂きたい。

現状では、既設橋梁の再利用は事例として非常に少ないが、今後社会通念が変わり、鋼橋も使い捨てる時代から再利用する時代に移り変わることを期待し、本報告書が時代を先取りした資料となれば幸いである。

最後に、本研究を実施するに当たり終始ご指導を頂いた成田先生、前田先生及び事例収集の際協力頂いたリフォーム部会員の皆様に感謝致します。